

2025年度_総合政策学部データサイエンス応用基礎レベルプログラム

自己点検・評価について

1. 2025年度の総合政策学部データサイエンス応用基礎レベルプログラムについて

(1) 認定のための科目と要件

	科目名	単位数	程度	合計単位数
必修科目	データ・サイエンス入門	2	I	10
	統計 A	2	I	
	統計B	2	I	
	プログラミング基礎	2	II	
	経営情報システム	2	III～IV	
選択必修科目	データ政策科学	2	III～IV	1科目2単位 以上修得
	インターネット概論	2	I～IV	
	プログラミング実践	2	II～IV	
	経済分析	2	II	
	多変量解析と公的統計	2	III～IV	
	アプリケーション開発	2	III～IV	
	計算社会科学	2	II	

(2) プログラムの履修者数等の実績

(受講者数について) ※ 入学者全員が履修者となる

2022年度の実績

1年次生 136名

2023年度の実績

1年次生 121名

2024年度の実績

1年次生 135名

2025年度の実績

1年次生 130名

(修了者について)

2025年度の認定プログラム修了者

学年	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
在学生数	130	131	122	156	539
修了者数	0	0	25	21	46
学年の学生数に 占める割合	0.0%	0.0%	20.5%	13.5%	—
全修了者の割合	0.0%	0.0%	54.3%	45.7%	100%

※在学生数は2025年5月1日現在

必修科目の1つである「経営情報システム」が程度Ⅲ～Ⅳの科目のため、2年次までに修了することはできない。選択必修科目が程度Ⅲ以上のものが多いため比較的3年次での修了者が多い。

2. 学修成果

①データサイエンスに関する科目を受講した本学の学生は、過去においてコンテスト等において賞を受賞している。

- 第3回計算社会科学大会(CSSJ2024)石井晃賞(学生賞)、構造計画研究所特別賞(スポンサー賞)受賞
- 情報処理学会第86回全国大会 全国大会学生奨励賞を受賞
- 統計データ分析コンペティション2025大学生・一般の部 総務大臣賞を受賞

②2025年9月3日～2025年9月7日に2023年度卒業生に実施したアンケートにおいて、総合政策学部卒業生は在学中に身についた力について下記の通り回答している。

※2024年度調査は2022年度卒業生に調査を実施

2023年度調査は2021年度卒業生に調査を実施

2022年度調査は2019年度、2020年度卒業生に調査を実施

問題を解決する力が身についた

	2025年度調査	2024年度調査	2023年度調査	2022年度調査
そう思う	58.8%	36.4%	43.8%	48.1%
ややそう思う	23.5%	63.6%	43.8%	51.9%
あまり思わない	17.6%	0.0%	12.5%	0.0%
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

数字やデータに基づいて物事を考える

	2025年度調査	2024年度調査	2023年度調査	2022年度調査
そう思う	82.4%	54.5%	50.0%	66.7%
ややそう思う	11.8%	36.4%	37.5%	29.6%
あまり思わない	5.9%	9.1%	6.3%	3.7%
そう思わない	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%

PC の操作、情報ツールを用いる力

	2025年度調査	2024年度調査	2023年度調査	2022年度調査
そう思う	76.5%	81.8%	81.3%	81.5%
ややそう思う	23.5%	18.2%	12.5%	14.8%
あまり思わない	0.0%	0.0%	6.2%	3.7%
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

結果として以下の力が付いたと考えている卒業生が多い。

自分の意見を論理的に分かりやすく伝える

	2025年度調査	2024年度調査	2023年度調査	2022年度調査
そう思う	41.2%	45.5%	37.5%	33.3%
ややそう思う	47.1%	54.5%	56.3%	48.1%
あまり思わない	11.8%	0.0%	0.0%	14.8%
そう思わない	0.0%	0.0%	6.3%	3.7%

社会の課題を自らの課題として捉えられる課題発見力が身についた

	2025年度調査	2024年度調査	2023年度調査	2022年度調査
そう思う	82.4%	90.9%	56.3%	66.7%
ややそう思う	11.8%	9.1%	37.5%	25.9%
あまり思わない	5.9%	0.0%	6.2%	7.4%
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

未知の問題に柔軟に対応する力

	2025年度調査	2024年度調査	2023年度調査	2022年度調査
そう思う	64.7%	45.5%	43.8%	33.3%
ややそう思う	29.4%	54.5%	43.8%	59.3%
あまり思わない	5.9%	0.0%	6.2%	3.7%
そう思わない	0.0%	0.0%	6.2%	0.0%

(出典) <https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/disclosure/career.html>

3. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムは総合政策学部独自の認定プログラムのため、全学的な拡大は図っていない。

本プログラムの必修科目(データ・サイエンス入門、統計A、統計B)6単位は学科での必修科目となっている。このため、学生にとっては認定されるためのハードルはそれほど高くない。また、卒業要件としてそれぞれ16単位を修得する必要がある「基幹科目:課題解決関連科目」、「基幹科目:専門科目」には、本プログラム修了に必要な科目を配置しているため、無理な履修選択をせずに修了できるようになっている。なお、必修科目の1つである「経営情報システム」が程度Ⅲ～Ⅳの科目のため、2年次までに修了することはできない。

4. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

2025年度の授業評価アンケートではデータ・サイエンス入門、統計A、統計Bの結果を確認した。受講生の約60%が理解できたとしている一方、約25%が理解できなかったとしている。このため、TAの配置、相談ができる場を設けるなど対応を行っている。

5. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本プログラム各科目の2025年度授業アンケートでは、以下のような学生の意見が寄せられている。

【データ・サイエンス入門受講者】

- パソコンに慣れないまま授業が始まったので心配な部分がたくさんあったが、毎回の課題を通してパソコンに慣れるだけでなく、エクセルの使い方も習得できて良かった。
- 課題は少し難しく感じましたが、授業の内容は課題で実践をすることで、理解が深まりました。
- 課題をやる時間の時、メンターさんだけでなく先生も教えてくださるのが良かった。わからないところを丁寧に理解するまで教えてくださるので身になることが多かった。
- データの分析方法を学ぶことができて良かった。
- 難しいと感じる部分もあったが、説明がわかりやすかった。
- 最初は特にエクセルに苦戦しましたが、友達と協力しあったり、先輩に教えていただいたり、周りに助けてもらいながらなんとか毎回の課題に取り組むことができました。将来にも役立つものだと思うので、もっともっと力をつけられるようにこれからも頑張っていきたい。
- レポートのフィードバックをもらえるのが助かる。

【統計A受講者】

- 教員の人数などの関係で難しいとは思いますが、統計の授業こそ少人数で行っていただいたらより理解が深まると思う。
- 課題の解説をもっと詳しく教えて欲しい。
- 授業内容も丁寧に教えてくださり、嬉しかった。
- 統計は自分にとって難しく、求めることが非常に大変ですが、課題を仲間と協力して求めることが良かった。アドバイスがもらえることが良かった。
- 解説が少し理解が難しかった。

【統計B受講者】

- サンプルコードの読み飛ばし等で課題のRを用いた作業の際に詰まることが多々あった。コード中の文言に対して、「この部分はこういう意味である」という記述が配布資料に載っているとちょっと円滑に作業を進められると思う。
- 課題は大変でしたが、統計に関する理解と興味が深まったため良かった。
- 課題は難しかったですが、丁寧に説明をしてくださり、授業内容はよくわかりました。
- 解説の時間をもう少しとってほしい。

先輩への推奨度は授業アンケートでの設問には無いが、授業の内容が高度で理解するために大変であるがその分とても身になったという意見が寄せられている。

【経営情報システム受講者】

- アプリを作ると聞いた時、自分にはできるかなととても心配になりましたが、最終的に完成できて、アプリを作る楽しさを学びました。
- よかった点は、アプリ開発をチームで実際に経験できたことです。
- 授業内でコードについて学ぶ時間が少なかった割には最終成果物ではコーディングスキルが求められるため、難易度が高かった。授業全体の効率が悪く、事前に資料が配布されていないことも大きな原因だと感じた。しかし、講師が二人以上いたため、質問ができる体制が整っていた点は良かったと思う。
- 初めてアプリを開発する経験ができ、とても有意義な時間だった。この授業を受ける前と後では、プログラミングに対する自信が全然違うと思うくらい、良い経験になった。

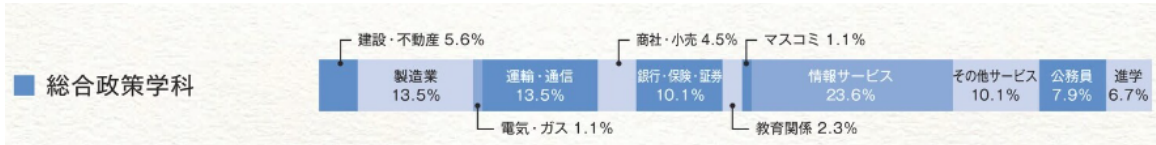
【プログラミング基礎受講者】

- ずっと興味を持っていたPythonが学習できて、本当に良い経験になった。
- プログラミングには関心がありましたが、実際に学ぼうと思うと独学では難しいと感じるので、講義を受けることが出来て良かったです。コードだけ見ると理解するのが難しいと感じますが、スライドや資料を参考することでかなり理解の幅が広がったので、これを機により深く学びたいと思った。

6. 本プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

総合政策学部の学生は 2024 年度卒業生93名のうち23.6%が情報サービス業、10.1%がコンサルティングを含むサービス業に就職しており、日本IBM、アクセンチュアには複数名が就職しており、富士通や野村総合研究所、アビームコンサルティングなどにも就職をしている。

2024年度総合政策学部卒業生 業種別就職者および進学者の比率



7. 授業の中で、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるための工夫

多くの授業が講義と演習の組み合わせにより実施されており、講義によって得た知識を演習で実際に試すことができる。また、授業においては「経営情報システム」「アプリケーション開発」のように企業において第一線で活躍している実務家が講師となることにより、最新の考えに触れることができる。また、PBL、グループワーク、プレゼンテーションを授業において導入することにより、他の学生の意見に触れる機会を設け、視野を広げる取り組みをしている。

8. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とするための工夫

授業時間内外において授業内容に対する質問を受け付ける仕組みを提供している事を徹底的に周知しており、苦手意識を持っている学生でも科目の履修と修得を支援するサポート体制が整っている。

演習付きの科目では TA を配置し、授業時間の前後に授業内容や演習課題についての質問を行うことができる。また、データサイエンスに特化した上級生メンター制度も設けており、毎日相談コーナーを開催している。受講生は予約等することなしに、不明点などを自由に相談することができる。教員のオフィスアワーにも、相談や質問を行うことができるとともに、学習管理システム(LMS)上のチャット機能や会議機能を用いた質問にも対応している。

以上